

「山内ふるさと物語～ふるさとを伝える紙芝居 公開撮影会～」報告

主催：山内エコクラブ 共催：山内自治振興会

1 事業名 「山内ふるさと物語」事業

2 経緯（趣旨）

全国でも例を見ない6地区の「山内ふるさと絵屏風」が完成した後、屏風制作と記憶回想の主人公である地域の高齢者の方々が絵屏風の絵解きや小学校への出前講座などで活躍されています。絵解きの語りでは、山内のふるさとの思い出や民意伝承が多く含まれており、貴重な山内回想遺産の一つになっています。

山内エコクラブは、この語りの中から生まれてきた「山内ふるさと物語」を可視化して民具の復元に次ぐ回想ツールにしようと、紙芝居づくりの企画・運営を進めてきました。紙芝居は、地域の方々の手で続々と完成し、一昨年度は山中地区・笹路地区の紙芝居披露目会を開催し、本年度は猪鼻地区・川西地区の披露目会を開催します。

本年度のお披露目会は、山内エコクラブと山内自治振興会の共催で実施し、紙芝居の公開撮影会と併せて平和人権の学習会を行いました。

3 開催日時 令和4年3月19日（土）14：00～15：30

4 開催場所 山内六友館

5 参加者 31名

6 内容

（1）14:00～趣旨説明 山内エコクラブ会長の竜王真紀が行いました。

（2）14:10～紙芝居披露 ① 猪鼻「猪鼻の子どもたち」（子どもの思い出）

② 川西「天狗杉物語」（涙をそそる伝承）

③ 猪鼻「ひと昔前の人権」（悲人塚の石碑）

資料：紙芝居制作から完成までの経緯

（3）15:00～ふるさと物語と人権

山内エコクラブの井阪尚司が進行しました。

① 紙芝居から戦争と生命について考えよう

・平和と民主主義の再確認

② 伝承から言葉と人権について考えよう

・「近江商人、伊勢っ子正直」の意味

（4）15:30～閉会挨拶 山内自治振興会長の青木博が挨拶しました。

7 紙芝居の披露目～「山内ふるさと紙芝居～猪鼻、川西の巻」～

「山内ふるさと紙芝居」は、地域団体が企画し、地域の方がストーリーを考え、地域の方々が着色の筆を持ち、地域の方々が語るという他に類を見ない山内地域オンリーの取り組みです。紙芝居づくりは、いわば「地域の、地域による、地域のための」文化遺産創出事業なのですが、これには重要な意味があります。それは、

- ①内容が山内地域の記憶を素材とした回想文化遺産であり、新たな文化的価値を生み出したこと。→ 次代に伝える伝承ルールになり、学校や公民館等で地域学習、山内ツーリズムの紹介などに活かされます。
- ②作品は地域の人々の手で分担しながら完成したこと。→ 口実だけだといずれ忘れられていく伝承や経験が、皆んなで可視化できたことの意味は大きく、関係者の達成感が「自己能力+集団の力+地域の宝」で倍増しています。披露目会は、制作への讃え合いと文化価値を共有する場になっており、山内の文化力の高さを誇っています。
- ③自信と誇りが生まれ自己効力感が高まったこと。→ 心を奮い立たせて皆んなで筆を持つと、自分も気がつかなかった「楽しさ、心地よさ」、「思ったより出来栄が良い、やればできる」という自信と地域の誇りとなる「山内の良さ、ここが好きという場所愛＝愛着心」が再認識されたと思います。これが、生きがいや役割を伴った新たな可能性への挑戦につながることで自身の健康増進に役立つと期待されます。



線描画（下絵）



着色



着色工房



猪鼻 1作

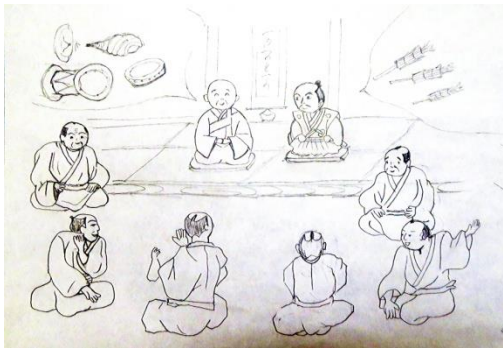
猪鼻 2作



完成



紙芝居お披露目会



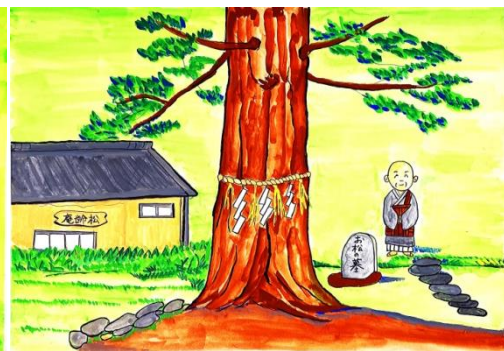
線描画（下絵）



着色



川西 1作



悲話 天狗杉「お松の墓」

8 人権学習会～地域回想と紙芝居に記録されている「平和と言葉」から考える～

(1) 平和と民主主義の再確認～紙芝居から戦争と生命について考える～

第2次世界大戦の頃の様子を描かれている紙芝居があります。山中、猪鼻には東海道が通っていましたが、多くの兵隊が往来したようです。また、四日市の空襲では、まちが火の海になり、山内地域の東の空が赤く染まったと伝えられています。

今、ロシアによるウクライナ侵攻が世界を震撼させ、尊い多くの命が失われています。

一人の権力者による命令で、何万人が殺戮され、家が焼かれ街が消滅する様を見ると、これが21世紀の世界なのかと目を疑います。

2015年9月に国連でSDGs(持続可能な開発目標)が全会一致で採択されました。この目標は、2016年から2030年の15年で達成する項目内容が書かれており、貧困や飢餓の根絶、平和の維持・実現等が謳われていますが、今の世界の状況を見ると、あらためて平和と人権と戦争について考える必要があります。

1グループ5人のテーブルで、話し合いを進めました。命の尊重、侵略や戦争の撲滅について思いを共有しました。

【出た意見や感想】(原文掲載)

- ・日本でも戦争があった。昔の人は、戦争で大変苦勞されたのだと思った。
- ・日本は戦争を経験しています。2022年にロシア・ウクライナ戦争は大変なことです
- ・なんと恐ろしい事が、ロシア対ウクライナで毎日毎日展開されているが、人としての考え方がなっていない。百害あって一利なし。
- ・戦争を見ていると子どもたちがかわいそう。これ以上、犠牲者を出さないでほしい。
- ・戦争の悲惨さを聞いている。現在のウクライナの人達がかわいそう。早い終結を。
- ・相手の国のことを想い、しっかり話し合いが必要。
- ・子ども、女子、年老いた方が、あんな状態では全く人として通じない。一日も早く平和な生活ができるといいが・・・
- ・これは戦争ではありません。ロシアのウクライナへの侵略です。プーチンが悪い。
- ・権力が強い時代でロシアの勝手。ウクライナの人々を助けてあげたい。
- ・話し合うこと。互いを理解する。明日は我が身と思い、人ごとの様に思わない。
- ・大国の利益で戦争をするのはよくない。
- ・ロシアが悪いが、それを後押しするような国、中国とかインドも悪い。
- ・戦争をなくすには？ どの国も人も必ず弱者が発生する。そして、負けたくない力が経済力か武力に頼っていく。国際的に平和になるためには、お互いの尊重が不可欠だ。オリンピック精神を実行できるとよい。
- ・国連機能がもっと強くなるのが一番です。大国の拒否権を無くすことです。
- ・お互いがそれぞれの立場で考える。一方通行では。ロシアの本当の事が分からない。
- ・ロシアは、民族を守るために行なっているように思えてならない。
- ・テレビを見ていると、ニセ情報が多く、何が正確な情報なのか不明。
- ・毎日テレビに流れるニュースで、ウクライナの人たちを思うと心が痛みます。国連があっても、ヨーロッパやアメリカ等がついていても止めることができないのが残念です。
- ・現在のプーチン大統領は、自分の感情をあらわにして人の命を何とも思っていない。でも、戦前・戦中の日本もロシアと同じでした。

(2) 「近江商人と伊勢っ子正直」の意味～言い伝え言葉から人権について考える～

私たちは、多くの伝聞情報の中で生きていますが、その中には誤情報や操作された情報も含まれています。正しいものもあれば、正しくないものもあります。このような情報化社会の中では、とくにコトやモノの真意を確かめながら人権のフィルターで捉え直す必要があります。また、地域には、相手を不快にさせる言葉が密かに伝わっていたり、説明文章が短くなったことで本当の意味が損なわれていたり、文字が簡略化されたりあて字を使ったために誤解を招いている場合があります。時々、伝承言葉の正しい意味を確認するとともに、人権に触れていたなら軌道修正する必要があります。

紙芝居では、江戸期に東海道のこの地で行き倒れになった人を村人たちが手篤く葬ったとされる塚がありますが、「非人塚」と記されています。しかし、本当は非の下に心がついていた「悲人塚」だったということで、絵屏風にも紙芝居にも「悲人塚」で紹介しています。また、「近江商人、伊勢こじき」や「近江どろぼう、伊勢こじき」という言葉を聞いた人が滋賀県側に多くおられます。「どろぼう」や「こじき」とは乱暴な言い方ですが、言葉が広まる途中で本意が変わっていったのではないかと思います。本当の意味は何だったのでしょうか。

グループの話し合いでは、「近江商人、伊勢こじき」や「近江どろぼう、伊勢こじき」を取り上げ、言葉の真意である「近江商人と伊勢っ子正直」について考えを共有し、伝聞情報の在り方について話し合いました。

【出た意見や感想】(原文掲載)

- ・「近江どろぼう、伊勢こじき」「近江商人、伊勢こじき」「近江殿の子、伊勢こじき」？
- ・近江商人のお口上手、伊勢の人に心を込めて。
- ・近江商人が天井のない蚊帳を多く売りつけた。
- ・近江商人が歩いた後には草が生えないと伝わり、悪いイメージがある。
- ・伊勢こじきは、食べ物ももらいに歩く人かと思った。
- ・近江商人は商売上手で知られている。伊勢こじきについては聞いたことがない。
- ・近江商人は知っていますが、伊勢こじきという言葉は、初めて知りました。(こじき→乞食)だと思ってびっくりしました。
- ・近江商人は、天秤棒をかついで上手に商いをしてきている。「伊勢こじき」じゃなくて「伊勢っ子正直」というふうに聞いている。
- ・いつも「ありがとう」の言葉を、家の中でも。ひさしき中にも礼儀あり。
- ・地域性により、生活程度で区別しないように。
- ・商売のやり方の言葉らしいが、極端な言葉で、伊勢こじきは見下げた悪い言葉。
- ・あまりもうけすぎず、勝ち負けができない商売ができれば良いと思う。
- ・近江どろぼう、だまし商人をなくすといいなあ。
- ・現在あまり使われない言葉ですが、何事にも忍耐が必要です。



人権学習会（ポストイットに思いや意見を書き、考えを共有しました）

8 まとめ

紙芝居づくりは、地域にある記憶を可視化する文化的創造作業です。素材見つけから着色、語りまでの一連の流れを地域の人が行うことで、地域を再発見し、新しい文化的価値を産み出さし、地域のヒストリー物語りをつくり、完成で達成感を味わい、披露目と語りで新たな役割と生き甲斐になる、文化的・健康的・協働的・創造的・ふるさと観の醸成につながる活動となっています。今回の紙芝居の完成で、他地域の参考にしていただける山内モデルが新たに追加されたことになり、山内を紹介するツールが増えたことを喜び合いあいたと思います。今回の披露目学習会が、地域回想文化の再認識になり、コロナ禍でコミュニケーションが少なくなっている中で、制作への労をねぎらう場やお互いのしゃべり場になったことの意義は大きいものがあります。

後半の回想人権学習は、絵屏風や紙芝居の記憶とコラボする内容を取り上げました。戦争と言い伝えに関して身近なテーマで話し合っていたいただき、参加された方の多くの思いと意見が共有できたと思います。

特に、戦争犯罪とも言われている今回のロシアによるウクライナへの侵攻は、人権学習に参加者された全員の方が、83年前に起こった第二次世界大戦と重ねて、意見を出された方が多かったと思います。国家が無差別的に尊い人命を奪う侵略戦争は、武力で民主主義を破壊する許しがたいものであり、自国民に対して情報統制を行ったり、思想洗脳したり、反対者を逮捕し、場合によっては処刑するという恐ろしく異常な国家社会が形成されるのです。かつて日本もこのような経験をしました。戦後、日本は平和になりましたが、いつ隣国から攻め込まれるか分からない不安もつきまとっています。独裁者が出る可能性も否定できません。私たちは、未来永劫、平和で民主主義の国が維持されることを望んでいます。これを維持する力は、理性と日頃からの人権学習による人権意識の研鑽しかありません。悲しくもタイムリーな話題ですが、今日の研修会は意義があったと思います。

今後は、子どもたちに、ふるさとへの愛着心や人権意識を持っていただくためにも、学校への出前講座などで紙芝居を活用していきたいと考えています。

企画 山内エコクラブ（全体進行：竜王、報告書：井阪）